

これまでの軌跡 これからの展望

津奈木町で活躍する地域おこし協力隊。

「どんな仕事をしているの?」と聞かれることも多い協力隊。

ここまでどんな活動をし、何を感じたのか、そしてこれから何をしていくのか—

3月15日(水)、活動報告会が津奈木町役場で開かれました。



地域商社業務
蟻正 直揮 さん(町中)

私の活動のテーマは「今あるものを繋ぎなおす」です。この1年間、津奈木町が今まで受け継いできたものをより多くの人に知ってもらえるよう活動してきました。

その1つが町の特産品スイートスプリングを使った「飲むゼリー」の開発です。昨年11月のふれあい祭りから発売を開始して、現在累計約600本販売しています。

2つ目は津奈木町に固定種野菜の種取り農業を落とし込むことです。固定種の野菜を栽培することで、栽培する野菜のブランド化を図りたいと考えています。これは、今後の農業の発展や販路拡大に繋がるのではないかと思うのでこれから精一杯取り組んでいこうと思います。

海や山などの自然に恵まれ、地域の温かみあふれるこの津奈木町のさらなる発展のために尽力していきたいです。これからもよろしく願っています。



津奈木漁協と連携した水産業
活性化プロジェクト推進業務
上原 慶人 さん(平国上)

この1年間はつなぎオイスターバルの運営及びサポート業務と津奈木漁協のサポート業務に特に力を入れました。

昨年9月には町の海産物のおいしさを知ってもらおうと、津奈木産の鯛と鰻を使ったちくわ作り体験を実施。30人を越える参加があり、まずまずの結果だったのではないかと思います。11月から始めたオイスターバル開店準備では、牡蠣の焼き方をお客さまに紹介する人が自分と宮山さんしかいないことに気づきました。そこで2月に協力隊の曾地さんと協力し、牡蠣の焼き方を紹介する映像を撮影。運営の効率化を図りました。売り上げが落ちる4月には、婚活イベントを開催予定なので興味のある方はぜひお越しください。

これからは海産物を使用した商品開発やオイスターバルの集客数アップ・新メニュー開発に力を注いでいこうと思っています。



つなぎFARM 推進業務
上原 ゆい さん(平国上)

私はつなぎFARM推進業務を担当しています。この1年間の活動では自然栽培を勉強し、つなぎFARMについて知るために過去の資料や活動を調べ、農家さんたちへ取材。これから私が何をすべきかを考えました。

その中で特に感じたことがつなぎFARMの町内の認知度・理解度があまり高いことです。メディアに取り上げられることで町外の人に知ってもらう機会は多いのですが町内の人がつなぎFARMと関わる機会が少ないのではと感じました。そこで、つなぎFARMの農産物のおいしさ・素晴らしさを感じてもらおうと、町内向けのイベントとしてつなぎ青空食堂や町内唯一の有機JAS認証事業者の山崎幸治さんと協力し、野菜塾を開催しました。

つなぎFARMの農産物を町内外の多くの人に知ってもらえるよう、今後も活動していきたいと思っています。



つなぎ百貨堂と連携した
町産品のブランド化と販路拡大
花枝 俊輔 さん(大泊)

ことしは農産物の加工品制作や販路拡大に力を入れました。その1つがパイヤです。実は県内だけでも1万人ほどパイヤを食べ慣れている東南アジア系の外国人が在住しています。そういった人をターゲットに販売をしました。

もう1つはパッションフルーツを使ったジン、リキュール、アブサンという3種類のお酒作りです。スイートスプリングジュースと抱き合わせで販売することでカクテルなどのお酒を好まれる人向けに販売していくと考えています。つなぎ百貨堂に近々納品予定なのでぜひ、飲んでみてください。

最後に、今年の広報2月号にも掲載したのですが、ラオスにお酒の蒸留やサトウキビの栽培を学びに行ってきました。最終的な目標としては津奈木町に蒸留所を建てることなので、今年度はそれに向けて頑張っていこうと思っています。



つなぎ百貨堂と連携した町産
品のブランド化と販路拡大
里地・里山を生かした地域活
性化と 移住定住促進
濱口 仙太郎 さん(竹中)

ことし1年間は自然米や野菜の栽培、耕作放棄地解消を目的とした「大地の再生講座」の開催、移住定住促進に向けた保育園留学などさまざまなことに取り組みました。

農産物の栽培では特にキウイの栽培に力を入れています。受粉から収穫まで実施し、スムージーやキウイバターといった加工品も販売に向けて取り組んでいる最中です。キウイは収穫時の実は固く、虫がつきにくいため自然栽培に向いています。これから新たな町の特産物になるのではと期待しています。

この1年間、さまざまな農産物を実際に作り、その大変さを知ったからこそ、本当の価値を伝えることの大切さを知りました。つなぎ百貨堂が物の本当の価値を伝える場として今以上に成長できれば町産品の販路拡大だけでなく、移住定住促進事業や観光事業にも結びついてくるのではと思います。



住民参画型アートプロジェクト
推進業務
大平 由香理 さん(大泊)

美術館の滞在制作をきっかけに移住しました。美術館運営サポートをしながら作品制作を続けています。

主な活動としては「柳幸典つなぎプロジェクト」の運営です。「入魂の宿」の制作では作品に使う植物の栽培を専門家と打ち合わせをし、住民さんたちの協力のもと栽培や植え替え、除草作業を実施。他にも鏡の反射を利用し、海と空を鑑賞する空間「NYUKONCELL」の取り付けなど具体的な施工にも携わりました。他にも「石霊の森」に使われている音声の録音や日本画の講習、アート体験ツアーなどにも取り組みました。

私はことしの6月で3年間の任期を満了します。そして、秋からアメリカマサチューセッツ州の現代美術館で活動することになりました。津奈木町で得た経験を糧に、今後は自分の感じたことを世界に発信できるようなアーティストを目指していきたいと思っています。



情報発信業務
曾地 啓介 さん(染竹)

昨年度も動画・写真による記録と情報発信、つなぎ美術館の運営サポート業務を担当しました。SNSを用いた情報発信では、イベントも増えてきており、充実した1年を過ごせたのではと思います。

昨年度からは契約形態が変わり、業務委託となったので、映像制作を主な業務とする個人事業者としての活動を開始。幼稚園・保育園行事の記録動画やオイスターバルの牡蠣焼きガイド動画を制作しました。個人事業者として活動を開始して実感したのは何を優先すべきか考えることの重要性。これから活動するにつれて実績を積みむことが必要となります。同日にイベントが複数発生したときは実績になるものを選ぶべきかなど感じました。

今年度は、撮影してきた写真・動画データの管理方法の模索や映像作品制作、映像関係の仕事の可能性を探ることに力を注いでいきたいです。